



損保ジャパン記念財団 News

●発行：財団法人損保ジャパン記念財団 〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-1-16 損保ジャパン新宿東ビル 11 階
TEL03-5919-0711 FAX03-5919-0710 <http://www.sompo-japan.co.jp/foundation> Eメール:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp

「NPO法人設立資金」贈呈式が全国で開催される

平成15年度の「NPO法人設立資金助成」は、42都道府県100団体への助成が決定し、贈呈式は環境財団と合同で、7月から全国各地において開催されています。

東京近郊（1都3県、39団体）の助成先を対象とした贈呈式は、7月23日損害保険ジャパン本社ビルにおいて、それ以外は助成先の地区を担当する地区本部または支店主催にて実施されました。お忙しい中、ご協力いただいた皆様には、損保ジャパングループの社会貢献の一翼を担っていただき感謝申し上げます。

なお、全国各地で新聞紙上などに掲載された贈呈式の模様は、4ページ以降に掲載しています。



贈呈式で、「財団設立以来26年間の感謝とお礼、助成を受けられる皆様への激励」の挨拶をされる平野浩志新理事長。

本社ビルで行われた贈呈式には、各方面から140名の方々が出席され、平野理事長から助成先お一人お一人の席にて決定通知書が手渡されました。



「自動車購入費助成」の応募締め切る

当財団社会福祉事業の「NPO法人設立資金助成」に次ぐ大きな柱である「自動車購入費助成」の応募を、9月16日に締め切りました。本年度は西日本地区所在の障害者福祉団体を対象に募集したところ、27府県から145件の申し込みがありました。

助成先団体の決定は、10月24日開催予定の「社会福祉助成選考委員会」{委員長：板山賢治氏（社会福祉法人浴風会理事長）}で行われ、1件あたり100万円、総数10件総額1,000万円の助成先が選考されます。

写真は平成14年度助成先「NPO くもり のち晴れ」（宮城県）での贈呈式です。



「損保ジャパン記念財団賞」の審査が始まります

わが国における社会福祉学分野の人材育成を目的として、優れた学術文献を表彰する「平成15年度（第5回）損保ジャパン記念財団賞」の候補文献は、著書部門12件、論文部門5件の推薦を受け付けています。（9月20日現在）

推薦は、日本社会福祉学会役員、日本地域福祉学会役員をはじめとする当財団が定めた「指定推薦者」の方々をお願いしています。

本年度の「損保ジャパン記念財団賞」は、10月17日の「第1回審査委員会」{委員長：大橋謙策（日本社会福祉学会会長、日本地域福祉学会会長）}から3回にわたる厳しい審査委員会を経て理事会に薦選され、来年2月の理事会で決定されます。



平成14年度「損保ジャパン記念財団賞」贈呈式
（受賞された田中・田川両氏と審査委員の皆さん）

なお、6月21日に開催されました「第4回損保ジャパン記念財団賞」受賞者記念講演会の講演録が、10月に【財団叢書 No66】として刊行されます。

「精神障害者の地域生活支援」

田中英樹氏

「高齢者ケアマネジメントにおける倫理的意思決定」田川佳代子氏

希望者には無料で配布させていただきます。

公益法人改革の動向 —財団が大きく変わる—

公益法人とは民法第34条に基づく非営利法人であり、財団法人と社団法人に区分され、その数は全国約2万6000。制度創設以来100年以上にわたり大きな改正のなかった制度は、変化する時代にマッチしない内容となり、政府の行政改革の一環として、特殊法人改革に続き現在その改革が進められています。

平成15年6月27日、政府はこれまでの検討を踏まえ「公益法人制度の抜本的改革に関する基本方針」を閣議決定しました。その内容は、①主務官庁の許可・監督による現在の制度に代わる新たな非営利法人制度を創設し、準則主義（登記）により簡便に法人設立できるものとする、その具体的内容は今後検討、②平成16年末までを目途に基本的枠組み具体化の上、税制上の措置を検討、17年度末までに法制上の措置を講ずることを目指す、というものです。またその中では、「法人は普遍的な国民の納税義務の下で、一般的に納税義務が課せられており、公益性を有するなど一定の場合に税制上の優遇措置が講じられる」など、この非営利法人は原則課税とも受け取れる表現があり、全体として不明瞭な内容と併せ公益法人関係者を中心に不満の声が上がっています。



「市民シンポジウム」(15.5.17)

さわやか福祉財団の共催により、「『公益』とは何か」と題して「正しい制度改革を進めるための市民シンポジウム」が開催され、当財団の田中専務理事が登壇者として参加しました。

なお、基本方針に基づき、公益法人制度の抜本的改革に関する関係府省連絡協議会が8月1日に発足しました。内閣官房、総務省、法務省、財務省の4府省で構成され、制度改革に関する本格的な検討がこれから始まります。本制度改革は、わが国の非営利活動、公益活動の制度を大きく変える改革であり、公益活動に熱心に取り組む市民活動やNPO、公益法人の声が十分に反映される改革でなければなりません。当財団としても、21世紀のわが国の発展を支える非営利活動・公益活動が更に活性化するような制度改革となるよう、今後とも積極的な取り組みと提言を行ってまいります。

公益法人改革

「社会貢献打撃」訴え

課税案に民間系反発

(朝日新聞 15.5.5)

閣議決定に先立ち、企業の助成財団や民間主導の公益法人はNPO法人とも連携し、政府・与党の制度改革（案）に反発を強め、役所と密着した一部の悪質公益法人の問題を理由に全体への課税を強化すれば、民間の社会貢献活動に打撃を与えると主張し（朝日新聞2003.5.5）、5月17日には、公益法人協会、高齢社会NGO連絡協議会、

寄付金の御礼

下記の方から暖かい寄付金をいただきました。ありがとうございました。
当財団の事業資金として大切に活用させていただきます。(9月24日現在)

長谷川 みちよ 様

(なお、当財団では皆様からのご芳志(寄付)を受け付けております。詳しくは財団までお問い合わせ下さい)



「NPO法人設立資金助成」 全国贈呈式特集

平成15年度の「NPO 法人設立資金助成（社会福祉助成）」は、42都道府県100団体への助成が決定しました。

贈呈式は、全国の損保ジャパンの部支店により一斉に開催されました。（環境財団の同趣旨の助成と同時開催）お忙しい中ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

贈呈式の模様が掲載された各地の新聞記事や写真、運営に関わっていただいた方々からの「一言感想」をご紹介します。（9/18現在報告分）

■ 新聞掲載記事

| No | 開催部支店 | 掲載紙 | 頁 | No | 開催部支店 | 掲載紙 | 頁 |
|----|-------|--------|----|----|--------|---------|----|
| 1 | 青森支店 | 一言感想 | 5 | 21 | 近畿総務部 | 日刊自動車新聞 | 13 |
| 2 | 岩手支店 | 岩手日報 | 5 | 22 | 近畿総務部 | 毎日新聞 | 13 |
| 3 | 山形支店 | 山形新聞 | 5 | 23 | 近畿総務部 | 保険毎日新聞 | 14 |
| 4 | 仙台支店 | 荘内日報 | 6 | 24 | 近畿総務部 | 新日本保険新聞 | 15 |
| 5 | 仙台支店 | 河北新報 | 6 | 25 | 兵庫業務部 | 毎日新聞 | 15 |
| 6 | 福島支店 | 福島民報 | 7 | 26 | 和歌山支店 | わかやま新報 | 16 |
| 7 | 群馬支店 | 上毛新聞 | 7 | 27 | 和歌山支店 | 毎日新聞 | 17 |
| 8 | 金沢支店 | 北國新聞 | 8 | 28 | 奈良支店 | 奈良新聞 | 17 |
| 9 | 富山支店 | 北日本新聞 | 8 | 29 | 島根支店 | 山陰中央新報 | 18 |
| 10 | 富山支店 | 富山新聞 | 9 | 30 | 山口支店 | 山口新聞 | 18 |
| 11 | 富山支店 | 北陸中日新聞 | 9 | 31 | 徳島支店 | 徳島新聞 | 19 |
| 12 | 山梨支店 | 山梨日日新聞 | 9 | 32 | 愛媛支店 | 贈呈式写真 | 19 |
| 13 | 岐阜支店 | 岐阜新聞 | 10 | 33 | 高知支店 | 高知新聞 | 20 |
| 14 | 松本支店 | 贈呈式写真 | 10 | 34 | 九州中央支店 | 佐賀新聞 | 20 |
| 15 | 松本支店 | 市民タイムス | 10 | 35 | 北九州支店 | 西日本新聞 | 21 |
| 16 | 静岡支店 | 静岡新聞 | 11 | 36 | 北九州支店 | 朝日新聞 | 21 |
| 17 | 静岡支店 | 中日新聞 | 11 | 37 | 長崎支店 | 長崎新聞 | 22 |
| 18 | 愛知東支店 | 中部経済新聞 | 12 | 38 | 熊本支店 | 熊本日日新聞 | 22 |
| 19 | 名古屋支店 | 中日新聞 | 12 | 39 | 沖縄支店 | 沖縄タイムス | 22 |
| 20 | 滋賀支店 | 毎日新聞 | 12 | 40 | 記念財団 | 保険毎日新聞 | 23 |

1. 青森支店一言感想

<鷺澤 直樹 青森支店長 談>

「初めての経験であったが、関係者から非常に感謝されニュースでも取り上げられ、助成の意義を強く感じた。」

<デイセンター花さき村 代表 河原木 幸二 談>

「NPO法人の設立準備の為県庁に複数人で訪問しなければならず、遠方からの交通費の負担など大変である。今回の助成は“助成金の使途を問わない”制度であり、資金に余裕が無い我々にとって大いに助かります。」

<八戸社会福祉法人八戸福祉協議会地域福祉課 浮木 隆課長 談>

「御社の助成金制度は窓口を訪れる社会福祉関係者への対応の際、助成の対象者、対象活動内容が明確で非常に良い制度であり、相手にも説明しやすく我々にとっても大いに助かります。」

小職(教育役)の感想

・マスコミ対応について

当社と取引のあるTV局の営業担当者に連絡したところ快く社会報道部への手配に応じてくれ屋のニュースにオンエアされた。話題性の高い活動だと感じた。

[青森支店] 教育役 小池 清彦 さん

2. 岩手支店 岩手日報 (7/26)

花巻の障害者支援
組織に30万円贈る
損保ジャパン財団
財団法人損保ジャパン
記念財団(平野浩志理事
長)は二十五日、本年度
の民間非営利団体(NP
O)法人設立資金として、
花巻市の障害者自立支援



サークルせせらぎの会
(瀨川春江理事長)に三
十万円を贈った。

瀨川春江理事長(左)に三
十万円を贈った。瀨川理事長
を手渡した。瀨川理事長

〔瀨川春江理事長(左)に目録
を手渡す横田龍夫常務執行
役員〕
贈呈式は、盛岡市中央
通二丁目の損害保険ジャ
パン盛岡ビルで行われ、
同社の横田龍夫常務執行
役員が「社会福祉の向上
に貢献することを期待し
ます」とあいさつし、瀨
川理事長に助成金の目録

は「今後も地域に重点を
置いた取り組みを展開し
たい」と抱負を述べた。
同会は、一九八九年に
設立。障害者ら四十二人
の会員が、空き缶回収な
どのリサイクルや、雪下
ろしなどのボランティア
活動に励んでいる。

団体主催者(瀨川春江理事長)が、たいへん熱心に活動内容や将来の抱負を語って下さいました。

福祉の仕事を「辛いけれど世のために我慢してやる」のではなく、「自分も楽しんでやる」と言われたのが、印象的でした。

なお、当地の主力紙である岩手日報に写真入りで掲載されたことに加え、地元テレビ局でもニュースで流してくれ、この活動の社会的意義を知らせることができた。

[北東北業務部 総務課]
リーダー(課長) 村田幸平さん

3. 山形支店 山形新聞

(8/9)

NPO法人設立
助成対象決まる
損保ジャパン2財団
損保ジャパン記念財団
と損保ジャパン環境財団
のNPO(民間非営利団
体)法人設立資金助成事

業で、県内から、小規模
作業所ハーマニーを運営
する一歩・一歩の会(山
形市、佐藤和江代表)と、
エコリング(鶴岡市、網
島不二雄代表)が本年度
の助成対象に選ばれ、贈
呈式が八日、山形市の損

害保険ジャパン山形支店
で行われた。
一歩・一歩の会は知的
障害者の自立支援組織で
五月にNPO法人の認可
申請を終えている。エコ
リングは地域資源循環型
の農業構築を目指し、市

民農園の運営を手掛け
る。法人認可を取得済み。
贈呈式では佐藤代表とエ
コリングの野尻智事務局
長に、五日市喬弘損保ジ
ヤパン山形支店長から決
定通知書が贈られた。助
成はともに三十万円。



エコリングに助成金

損保ジャパン環境財団
 (本部・東京都、平野浩
 志理事長)のNPO法人
 設立資金助成団体に鶴岡
 市のエコリング(綱島不
 二雄代表)が選ばれ、三
 十万円が交付された。
 同財団は、地球環境保
 全活動を展開するNPO
 の設立を支援するため、
 五日市支店長(右)から
 助成金が贈られた

山形市内でこのほど行
 われた贈呈式で、損保ジ
 ヤパン山形支店の五日市
 喬弘支店長からエコリン
 グの野尻智事務局長に助
 成金が贈られた。

一九九九(平成十二)年
 に助成制度を創設。助成
 を受けた団体は本年度で
 六十六団体に達した。
 エコリングは、資源循
 環型社会の構築を目指し、
 今年六月に設立された。
 地域環境に適応した生産
 システムの企画・立案、
 調査・研究、子供たちを
 対象にした環境教育の推
 進などを掲げて活動して
 いる。

社会福祉へ助成

NPO設立資金
 2団体に30万円

損保ジャパン記念財団

損害保険ジャパン記念財団
 (東京はこのほど、特定非営利
 活動法人(NPO法人)の設立資
 金を援助する本年度の社会福祉
 助成(各三十万円)の対象に、法
 人の認証を申請中の仙台市の精
 神障害者家族会「みどり会」(柳
 沼幸男理事長)と、一迫町のみや
 ぎ身障者サポートクラブ(野沢
 タキ子代表)を選んだ。
 仙台市宮城野区の損保ジャパ
 ン仙台支店で開かれた贈呈式
 で、篠崎暁支店長が二団体の代
 表に決定通知を手渡した。
 みどり会は、市内で精神障害
 者の作業所やグループホームを
 運営。サポートクラブは、脳出
 血などで障害が残った人らを対
 象にしたデイサービスセンター
 の開設を進めている。
 助成は、同財団が安田火災記
 念財団時代の一九九九年頃から
 実施している。

贈呈式においてNPOの方達とその
 取り組みについて色々なお話をお聞き
 しました。

ボランティアであり、こんなに社会
 に役立つ取り組みを行っていることに
 感動を覚えつつ、その設立資金を援助
 する意義を感じました。

損保ジャパングループとして、意義
 深い取り組みを行っていると思いま
 す。

[仙台支店]

支店長 篠崎 暁さん

6. 福島支店 福島民報 (7/24)

県内障害者支援
2団体に30万円
損保ジャパン財団助成

損保ジャパン記念財団
は二十三日、障害者らの
支援を行う県内の二団体
「宙(そら)の仲間たち」
(郡山市富久山町)と「な
のはなの家」(同市安積
町)に助成金各三十万円
を贈った。

同財団は社会福祉活動
を行うNPO法人の設立
資金を助成している。今
年度の贈呈先として全国
の九十八施設とともに選
ばれた。

贈呈式は福島市の損保
ジャパン福島支店で行わ
れ、島丈夫支店長が「宙

の仲間たち」の兼田富美
子設立代表者と、「な
のはなの家」の佐藤敦子所
長に助成決定通知書を手
渡した。



通知書を手にする(右
から)佐藤さん、兼田
さんと島支店長



「宙の仲間たち」は今
年四月から、障害者と子
どもたちが畑で無農薬野
菜を作るなど、ふれあ
いの場を設けたほか、知的
障害者のデイサービス実
施を計画している。「な
のはなの家」は聴覚障害
者や重複障害者が牛乳パ
ックをはがき、名刺、便
せんなどに加工し、販売
している。聴覚障害者を
中心としたデイサービス
事業を来年度から始める
こととしている。

二団体とも来年四月の
NPO法人化を目指して
いる。

7. 群馬支店 上毛新聞 (8/8)

贈呈式後の懇談の時間では、贈呈先の方から生の声を聞くことができ、活動の意義深さを感じました。

また、来賓の福祉協議会の方からは、『もっとこの記念財団の存在を広めたほうがよい』とのコメントを頂きました。

[群馬支店] 伊藤 芳江さん

2団体にNPO
法人助成金贈呈
損保ジャパン記念財団
損保ジャパン記念財団
(平野浩志理事長)は、前
橋市本町の損害保険ジャパ
ン群馬支店(宮下佳蔵支店
長)で本県分の「NPO法
人助成金贈呈式」を行った。

助成金を受け取ったのは、地域生活サポートネット「さやけき」(群馬町棟高、中野和典代表)と藤岡ホーム(藤岡市西平井、須郷信雄代表)の二団体。それぞれに三十万円が贈られ、「さやけき」の小野木謙介さんと藤岡ホームの須郷さんに目録が手渡された。NPO法人設立資金として使われる。全国で二百六十五件の応募があり、二団体など百件が選ばれた。



助成金の目録を受け取った小野木さん(前列左から2番目)と須郷さん(前列左から3番目)

8. 金沢支店 北國新聞 (7/31)

佐藤支店長(右)から
決定通知書を受け取る
福森代表(左) 金沢
市香林坊一丁目の損保
ジャパン金沢支店



NPO設立へ助成
損保ジャパン財団
財団法人損保ジャパン
記念財団は三十日、金沢
市で活動する金沢メンタ
ルヘルスボランティアアク
ラブ(KMC)にNPO
法人設立の資金として三
十万円を助成した。
同財団は、民間での福
祉活動推進を目的に、一

九九九年からNPO法人
設立資金助成に取り組ん
でいる。KMCは金沢市
の精神保健ボランティア
講座修了生を中心に料理
教室を通じた交流や作業
の支援などの活動を行っ
ている。来春、市内で作
業所を開設するために、
NPO法人設立の準備を
進めている。
贈呈式では、損保ジャ
パン金沢支店の佐藤彰彦
支店長が「資金を有意義
に活用してほしい」と福
森隆子代表に助成決定通
知書を手渡した。

民間ボランティア活動では限界があっ
て為し得ない事を、助成活動を通じて
支援出来る事に誇りと喜びを感じるとと
もに、これら社会貢献活動を地域社会
の方々にもっとアピールして行きたい
と感じました。

[金沢支店]

リーダー(業務)

有田 智史さん

9. 富山支店 北日本新聞 (8/9)



愛和報恩会の吉田
勇次郎代表(左か
ら3人目)に助成
決定通知書を手渡
す西沢敏二損保ジ
ャパン富山支店長
 富山市本町の同
支店

愛和報恩会(尾)に
助成金贈呈へ
損保ジャパン記念財団
東京都の損保ジャパン
記念財団(平野浩志理事
長)が毎年行ってい
る社会福祉団体

への助成の対象団体がこ
のほど決まり、県内から
選ばれた八尾町のグルー
プ、愛和報恩会に八日、
決定通知書が、富山市本
町の損害保険ジャパン富
山支店で贈られた。
助成は、同財団が昭和
五十二年の創設時から行
っており、二十六回目。
本年度は、特定非営利活
動法人(NPO法人)の
設立資金として百の団体
に三十万円を助成する。
同会は平成九年に発足
し、障害者の作業所と寮
を八尾町西川倉で運営

今回初めて贈呈式開催に携わり、改めて
損保ジャパン記念財団及び当社が社会貢献
活動に力を入れている事を肌で感じる事が
でき、とても意義深い貴重な経験をさせて
いただきました。

助成先団体との贈呈式開催の打合せに始
まり、県及び町の社会福祉協議会への働き
かけや地元マスコミへのニュースリリ
ース、そして贈呈式の細かい準備関係等、全
て初めての経験で戸惑う事も多々ありまし
ましたが、支店長席をはじめ課支社のみなさん
のご協力のもとに、何とか滞りなく贈呈式
を開催する事ができました。

その中で、S Jグループの社会貢献活動
について、助成先団体の方々や社会福祉協
議会の方々そして地元マスコミの方々に
“お知らせする場”を提供できた事は非常
に良かったと思います。

[富山支店]

課長代理 国井 友生さん

している。今年六月に県
に認証申請し、九月に認
証を受ける見通しとい
う。
式では、西沢敏二同支
店長が「法人化により、
地域の社会福祉の向上に
一層貢献していただきた
い」とあいさつ。同会の
吉田勇次郎代表に通知書
を手渡した。吉田代表は
「今後、活動の幅を広げ、
地域全体を幸せにした
い」と礼を述べた。

NPO設立資金を助成 損保ジャパン、愛和報恩会に



助成決定の通知を受ける吉田代表
—富山市本町

民間の障害者、高齢者
福祉団体を支援する損保
ジャパン記念財団は八
日、八尾町西川倉の「愛
和報恩会」に、NPO法
を総合的に支援してお

り、農作業や食品加工な
どを展開している。十月
までにNPO法人の取得
が見込まれている。
富山市本町の同支店で
開かれた贈呈式では、損
保ジャパン富山支店の西
澤敬二支店長が、愛和報
恩会の吉田勇次郎代表
に、助成決定通知書を手
渡した。吉田代表は「活
動を通して、障害者の人
生全体を支援したい」と
お礼の言葉を述べた。
同財団は一九九九(平
成十一)年から、民間で
の福祉活動を推進させる
ため、NPO法人設立資
金を助成している。

◇NPO法人設立資金
を助成 損保ジャパン記
念財団が、障害者・高齢
者福祉の特定非営利活動
法人(NPO法人)設立
資金の本年度助成先を決定。関係分では「金沢メ
ンタルヘルスボランティア
クラブ」(金沢市、福
森隆子代表)と「愛和報
恩会」(富山県八尾町、
吉田勇次郎代表)が選ば
れた。同財団は全国10
0団体に各30万円を助成



福祉活動組織に
助成金30万贈る
損保ジャパン記念財団
(平野浩志理事長)の障害
者や高齢者の福祉活動に取
り組む団体を対象とした
「NPO(民間非営利)法人
設立資金助成」制度の助成
対象に、都留市を中心に活
動する「住まいるネットワ
ーク」(渡辺護理事長)が
選ばれ、七月二十九日、助
成金三十万円が贈られた。
同ネットワークは、高齢

助成金贈呈決定通
知書を手渡す深沢
克弥支店長(左)
|| 甲府市丸の内1
丁目の損保ジャパ
ン山梨支店
者の家庭内事故の
原因となる自宅の
段差や狭さを解消
するための改築案などを提
案し、安全で快適な住宅の
普及を目指している。
この日、甲府市丸の内1
丁目の損保ジャパン山梨支
店で贈呈式が行われ、深沢
克弥支店長が渡辺理事長に
助成金贈呈決定通知書を手
渡した。渡辺理事長が「有
効に活用したい」と感謝の
言葉を述べた。



13. 岐阜支店 岐阜新聞 (8/23)

大垣の障害者支援
団体に30万円寄付
損保ジャパン財団
損保ジャパン記念財団
(平野浩志理事長)は二十
一日、大垣市赤坂新町の
「障害者地域生活サポー
ト相談所 青空」(川上
孝浩理事長)に、NPO法
人設立の資金として助成
金三十万円を贈った。



同財団は、民間の福祉
活動を支援しようと、四

年前から助成金を寄付し
送迎サービスなどに取り
ている。今年是全国二百
六十五件の申し込みの中
から百件が選ばれ、県内
では福祉サービスの情報
提供、勉強会、高齢者の
柏谷智支社長(写真右)
から助成金を受け取る川
上孝浩理事長、大垣市旭
町、損保ジャパン大垣総
合支社

同団体は、七月十五日に
NPO法人化した。
贈呈式は、大垣市旭町
の損保ジャパン大垣総合
支社で開かれ、柏谷智支
社長が「より一層地域に
根差した活発な活動をし
てください」とあいさつ
し、川上理事長に目録を
手渡した。

14. 松本支店 贈呈式写真



損保ジャングループのメセナ活動を広く
社員と地域の方に知ってもらおう大変良い機会。

また、現地(大垣)で贈呈先への連絡と同時に、
来賓として大垣市社会福祉協議会の方において
頂いたが、贈呈式後には和やかな情報交換が行わ
れました。当社会議室の使用を提供できた事にも
感謝!

協議会にも、今後NPO団体とどのように関わり
を持っていくのかという課題があるようで、当
社がこのような機会を通じてコーディネーター
役を果たせればと思います

〔岐阜支店 大垣総合支社〕
リーダー(支社長) 粕谷 智さん

15. 松本支店 市民タイムス (8/22)

発達障害児を支援する会

NPO設立へ助成金受ける

発達障害の一つとされ
るアスペルガー症候群の
子供たちが、集団の遊び
などを通して人間関係の
築き方や友人との交わり
方を学習・体験する事業
に取組んでいる、「長
野アスペ中南信親子お楽
しみ会」(事務局・穂高
町、降旗多鶴子代表)は
二十一日、損保ジャパ
ン記念財団(本部・東京)

から、NPO(民間非営
利団体)法人設立資金と
して、助成金三十万円の
交付を受けた。



NPO法人設立のた
めの助成金を受ける
降旗代表

同会は臨床心理士や保
育士らが定期的に、中南
信地方の約十人の子供に
一対一で接しながら各自
の特性を上手に伸ばす支
援をしたり、保護者への
集団カウンセリングや個
別相談などを実施してい
る。来月には県へNPO
法人の認証申請を行い、
今月末にはそのための設
立総会を予定する。
同財団は二十五年前か
ら福祉向上などの助成事
業に取り組み、今年は今
国の百団体に助成金を贈
る。贈呈式は松本市大手
三の損保ジャパン松本支
店(内田久登支店長)で
行い、降旗代表は「援助
いただき、感謝してい
る。広く参加できる会に
したい。継続的に子供を支援
したい。悩みなどのある
人は連絡してほしい」と
話した。
問い合わせは同会(電
話83・2745)へ。



NPO法人設立資金助成金の贈呈式—静岡市呉服町の損害保険ジャパン静岡支店

NPO法人設立
2団体に助成金
損保ジャパン記念財団
損保ジャパン記念財団
(東京都)はこのほど、
本年度のNPO法人設立
資金助成金三十万円を
「UDRP(ユニバートサ
ルデザイン・リサーチプ
ロジェクト)」(静岡市、
勝亦威光代表)と「ママ

もっと笑って(袋井市、
村松恭子代表)に贈った。
「UDRP」は障害者の
実態調査、自立支援プロ
グラムの実施、技術者養
成などを旨とし、八月に
NPO法人の認証を取得
する見通し。「ママもっと
笑って」は児童デイサー
ビス事業の委託運営、ポ
ランティア養成講座の企
画運営などを予定し、認
証取得は八月の見込み。
勝亦代表が「障害のあ
る人たちが働ける環境づ
くりを励みたい」と抱負
を述べた。村松代表は「障
害児が社会生活を営める
よう地域の理解と生活環
境を整えていきたい」と
話している。
記念財団の創立は昭和
五十二年。平成十一年度
からNPO法人設立の助
成を始めた。本年度の助
成対象は全国で百団体。

ビジネス世界の外にも、頑張っている人々がいる。
こころ洗われた一日でした。
[浜松支店 磐田支社]
リーダー(支社長)倉嶋 朋男さん

損保ジャパンが
助成金30万円
袋井の知的障害
支援団体に寄贈
福祉団体のNPO法人
化を支援している損保ジ
ヤパン記念財団(東京都
千代田区)が、袋井市の知
的障害児支援団体「ママ
もっと笑って」(村松恭子
代表)に助成金(三十万
円)を贈った。写真。
同団体は昨年末、同市
内の知的障害児の母親ら
十人で発足。地域の知的
障害児の各種支援事業を
行い、子供たちとその家
族が地域社会の中で生き



生きと生活できる環境づ
くりに取り組んでいる。
現在、NPO法人認証申
請を済ませ、八月末にも
認証を受ける見込み。
助成金を受け取った村
松代表は「人とのつなが
りを大切にした活動を実
践したい」と感謝した。

損害保険ジャパン愛知東支店(豊橋市白河町八、清水敏行支店長、電話053-2333155)は、このほど、特定非営利法人(NPO)「ラル・あゆみ」(ラル・あゆみ)事務局長谷市、畑和子(代表)の法人設立資金を助成した。

「ラル・あゆみ」を助成

損害保険ジャパン愛知東支店 NPOの設立支援



畑代表に目録を手渡す清水支店長(左)

今回の助成は、損保のための資金三十万円(平野浩志理事長)が今年度の提供を決定した。同財団は過去五年間で五百団体に合計一億五千万円を助成している。ラル・あゆみは、障害者や年輩者の外出を支援するグループ。一九九七年に設立された、車いす利用者の度(社会福祉助成金と)支援と交流を目的として、全国百の障害者・高齢者福祉団体に対「あゆみの会」を母体とし、各NPO法人設立体としている。(豊橋)

福祉NPO設立へ
県内3団体を支援
損保ジャパンの財団

財団法人損保ジャパン記念財団が、障害者・高齢者福祉に取り組む団体の法人化を支援するNPO法人設立助成金の贈呈式が、名古屋市中区丸の内(損害保険ジャパン名古屋支店)であった。

同財団は一九九九年より毎年百団体に助成をしている。本年度県内で助成を受けるのは「つくしの会」(名古屋市中種区)、「ドリーム」(名古屋市中村区)、「金曜グループ」(東郷町)の三団体。損保ジャパンの土田謙二名古屋支店長から代表者が目録を受け取った。

脳卒中による中途障害者を支援する「ドリーム」の谷本慎吾さん(右)はこのように支援していただけるのは本当にありがたい。地域の温かさに感謝して頑張る」と抱負を述べた。

贈呈式における社会福祉団体の皆さんの挨拶を聞いて、団体の成長を支援する記念財団の取り組みは非常に効果的であると感じた。

[名古屋支店]
リーダー(業務)
齋藤 真衛さん

毎年滋賀県の社会福祉団体・NPO法人が助成金を受け取っていただき、地域営業を行う支店・課支社のメンバーとして嬉しく思います。

滋賀県には琵琶湖という全国に誇れる自然財産を持っており、環境問題に県としていち早く取り組んでおり、環境問題・NPO団体への助成金の贈呈は意味深いものがあります。

[滋賀支店]
リーダー(業務)
向井 隆晃さん

NPO法人設立助成金を 損保ジャパン2財団贈呈

AZカンパニーなど3団体に



損保ジャパン記念財団と損保ジャパン環境財団の「NPO法人設立資金助成」制度に選ばれた県内3団体に25日、大津市の損保ジャパン滋賀支店で助成金各30万円が贈られた。全国で計308件

損保ジャパンの木村保明・滋賀支店長(右)から助成金を受け取る六角ふれあい広場管理運営委の森嶋克巳委員長の申請があり計12団体が選ばれた。県内は障害者の事業型作業所設立を目指す大津市の「AZカンパニー」▽独自の地域おこし活動を進める甲南町の「六角ふれあい広場管理運営委員会」▽赤野井湾の浄化に取り組み守山市の「豊稷の里 赤野井湾流域協議会」。

NPO設立資金助成の贈呈式開催は、近畿総務では、携わったメンバー全員が初めての経験だった。

マスコミへのニュースリリース、式典の段取り、そして、実際の式典での司会および進行など、社会環境室や記念財団・環境財団から聞いたり、自分たちで考えたりして、手探りの中からなんとかこなせたという感じだった。

終わってみて、マスコミに記事が掲載されたり、贈呈先の団体から、お礼の電話やはがきをもらったりすると、この助成金制度の良さを改めて認識すると共に、この助成金の贈呈式に携わることができて、本当に良い経験ができたと思った。

[近畿総務部 総務課]
主任 有川 修 さん

**NPO設立資金
助成贈呈式開く**
損保ジャパン記念財団と同環境財団

催した写真。全国では記念財団が社会福祉分野の100団体へ、環境財団が環境保全分野の12団体へ贈呈する。助成金は1団体につき30万円、全国合計3360万円。小谷有生損保ジャパン近畿総務部長は「今後社会福祉・環境保全活動に取り組みたい。各団

体には、一層活躍してもらいたい」と激励した。助成先は次の4団体。
▽あい・すまいる淀川高齢者・障害者自立支援センター設立準備室▽枚方自助員の部屋▽みのお山麓保全委員会▽ハッピークラブ



22. 近畿総務部 毎日新聞 (7/30)

4団体にNPO法人設立助成金
損保ジャパン財団
府内の社会福祉などの活動に携わっている4団体が29日、NPO(非営利組織)法人設立資金として、損保ジャパン記念財団と損保ジャパン環境財団から各30万円の助成金の贈呈を受けた。助成を受けたのは、あい・すまいる淀川高齢者・障害者自立支援センター設立準備室▽枚方自助員の部屋▽みのお山麓保全委員会▽ハッピークラブ。



保
念
財
団
NPO設立資金の大阪地区贈呈式開く



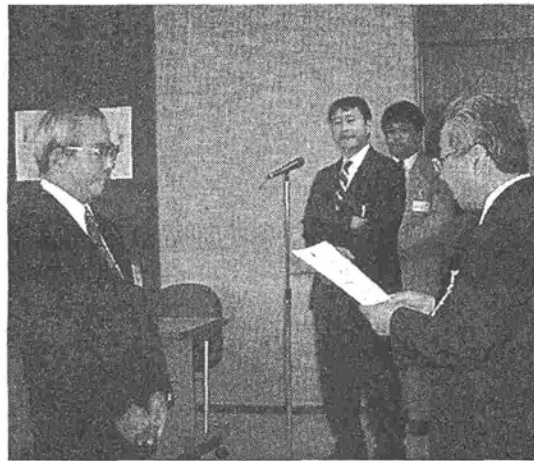
大阪地区贈呈式には4団体から8人が出席

高齢者福祉など4団体に助成

【大阪】保念財団(代表・池谷節子氏)から、高齢者福祉など4団体に、NPO設立助成金30万円ずつが贈呈された。贈呈式は、7月29日午後2時から、NPO法人設立助成金の大阪地区贈呈式を損保ジャパン近畿本部で開催した。

助成先団体である特定非営利活動法人「あい・すまいる淀川高齢者・障害者自立支援センター」設立準備室(代表・内海義司氏)をはじめ、「枚方自助具の部屋」(代表・藤尾征三氏)、「みのお山麓保全委員会」(代表・稲井信也氏)、「ハッピークラブ」(代表・池谷節子氏)の4団体から8人が出席した。

西財団では、今年度、全国112の障害者・高齢福祉団体に対し、特定非営利活動法人(NPO法人)設立資金として各30万円、合計3360万円の助成を決定し、全国各地で贈呈式を行っているが、そのうち大阪府下では4団体に助成した。NPO法人設立資金助成は、特定非営利活動促進法の成立によってNPO法人の設立が容易になったを受け、社会福祉・環境分野での設立を支援する



各団体にNPO設立資金 30万円が手渡された

ために平成11年から西財団が支援してきたもので、この5年間に全国566団体に1億6980万円を助成している。

主催者側を代表してあいさつした小谷有生損保ジャパン近畿総務部長は、「西財団が東京にあるために、代わって近畿本部が行った」

とし、損保ジャパンが社会貢献活動の一環として昭和52年に設立し、25年を迎えた記念財団の活動について述べるとともに、記念財団が平成11年を第1回として、毎年、全国の100団体に3000万円を助成している主旨について説明した。

また、平成11年に設立した環境財団についても、グローバルな環境問題に対処し、環境保全活動や若手研究者への助成を中心に行い、平成11年から記念財団と同様に環境保全活動に従事するCSO助成の一環として実施、今年も全国12団体、360万円の助成を行ったと報告した。

さらに今回、助成の対象になった団体が法人化をすることによって、「さらに大きく発展することが期待される団体である。市民活動の中でけん引的な役割を果たしていただける団体と確信している」とたたえ、損保ジャパンとしても引き続き応援をしていくと表明し、贈呈のあいさつとした。

続いて決定通知書が小谷部長から4団体の各代表者に手渡され、助成先を代表して、あい・すまいる淀川高齢者・障害者自立支援センター設立準備室代表の内海氏が、「私たちのあい・すまいるも、いよいよ最終段階に入り、法人申請をして本格的にNPOの団体として活躍していきたいと思っている。この助成を励みに社会貢献に尽くしたい」とお礼の言葉を述べた。



損保ジャパン近畿本部で助成金贈呈
 損保ジャパンでは、(株)損保ジャパン記念財団および(株)損保ジャパン環境財団を通じて、平成十一年度から環境・社会福祉団体の特定非営利法人(NPO法人)設立を支援しており、今年も全国合計三三六〇万円の助成(障害者・高齢者福祉一〇〇団体、環境一二団体、各三〇万円の助成)を決定した。



大阪府下においても四

大阪府下においても四
 大阪府下においても四

NPO法人設立資金
 5団体に助成金贈呈
 損保ジャパン財団
 損保ジャパン記念財団
 が障害者・高齢者団体に
 NPO法人設立資金30万
 円を助成する対象に県内
 5団体が選ばれ、神戸市
 中央区で1日、贈呈式が
 あった。

26回目NPO法人設
 立に絞って5回目。受賞
 団体は次の通り。
 発達支援クラブパンピ
 (明石市)▽障害者自立
 センター(同)▽心臓病
 の子どもを守る会(同)支
 部(神戸市西区)▽ヒュー
 マンサポート(同)▽姫
 路地区手をつなぐ育成会
 (姫路市)【細川貴代】



兵庫本部の贈呈式では、寄付先団体から日頃の活動で苦勞していること等の発表を行っていただき、大変有意義な時間となった。

各分野及び地域で地道な活動で頑張られている方々が多くおられるのにあらためて感銘した。今後も、損保ジャングループとして受賞された団体の活動に可能な限り協力して行きたいと思う。

[兵庫業務部] 魚住 真紀子 さん

「あかりのいえ」に助成金

損保ジャパンがNPO法人を支援

財団法人損保ジャパン記念財団（平野浩志理事長）は、平成十五年度の社会福祉助成金として全国百の障害者・高齢者福祉団体に対し、特定非営利活動法人（NPO法人）設立のための資金として各三十万円、合計三千万円の助成を決定した。県内では和歌山市中之島八二九の七、「あかりのいえ」（小松正弘代表）が選ばれ七日、株式会社損保ジャパン和歌山支店の吉田宏支店長が同所を訪問、目録を贈呈した。

同財団は昭和五十二年、した福祉系団体が地域年に創設。以来、社会福祉助成を始め今回が二十六回目、NPO法人設立資金助成は平成十一年から今年度が五回目。

「あかりのいえ」は、てんかんや知的障害のある人たちの自立を目指す九家族で構成。今年二月、中之島地内に一戸建てを借り上げ支援者やボランティアの力を借りて自立した生活を送るグループホームを設立した。現在は宿泊体験などを

通じて、徐々に家族から離れても生活できるように慣らしている。先月二十五日にはNPO法人として承認された。保護者らは、「これまででは法人化することだけで精一杯でした。そういう意味でもこうした助成は大変有り難い。今後は実績を積んで市の助成金をいただけるよう目指したい。将来、私たちが先立つことになって子どもたちが自立できる環境をつくってやりたい」と話していた。



吉田支店長（右端）から目録を受け喜びの保護者ら

贈呈式で訪問した「あかりのいえ」で担当理事の方が、「助成金内定通知を受け、早速クーラーを購入しました。本当にありがとうございます。」と言われ、暑い最中、涼しい部屋へ案内された。助成金が役立ち本当によかったと実感しました。

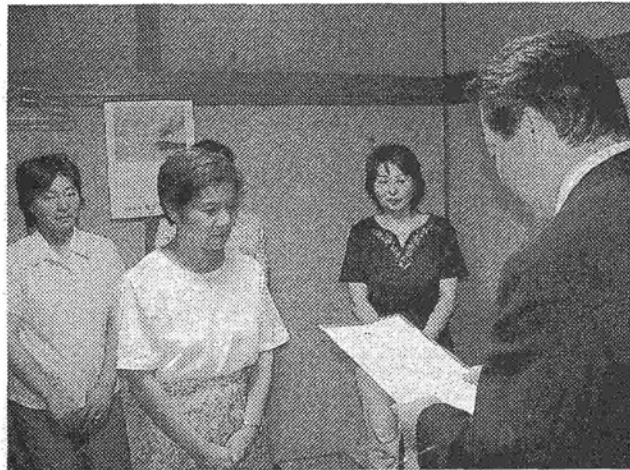
〔和歌山支店〕担当課長（業務）
齋藤 宏明さん

損保ジャパン
記念財団

NPO「あかりのいえ」に

助成金30万円を贈呈

てんかん患者自立に向け



助成の通知書を受け取る「あかりのいえ」のメンバーら

民間福祉活動を支援しようとして、財団法人損保ジャパン記念財団（東京都新宿区、平野浩志理事長）は7日、和歌山市内にててんかん患者のグループホーム「あかりのいえ」（小松正弘理事長）にNPO法人設立資金助成金30万円を贈呈した。

財団のNPO法人設立助成は99年に始まり、これまで全国の約500団体に贈呈した。県内ではこれが初めてという。

県から認証された。患者の自立を目指し、一戸建てのホームで短期の宿泊体験などを行っている。来年3月をめどに患者と支援者が生活を始める予定だが、市の補助金を受けるとは4人以上が住民票をホームに移して生活しなければならず、現在はすべて自費で運営しているという。

「あかりのいえ」は、てんかん患者の家族らでつくる会「あかり」が今年4月26日に設立。7月25日にNPO法人として

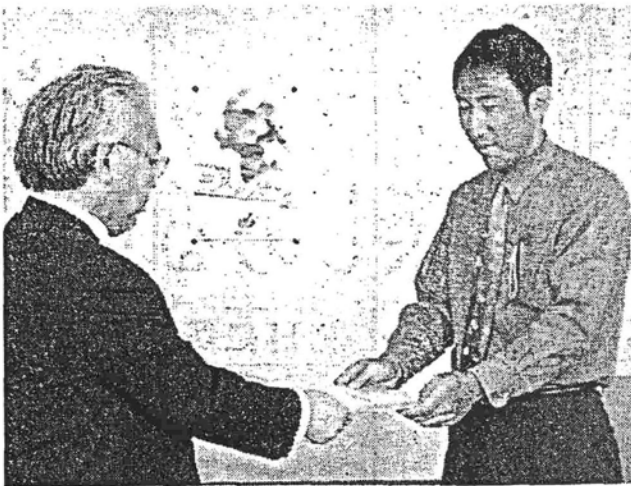
損保ジャパンの吉田宏・和歌山支店長から助成決定通知を受け取った理事のランドマーク京子さん(48)は「冷房や電話の権利代など、生活するうえで必要なものも足りない状態。助成金は本当にありがたい」と喜んでいた。

【小林多美子】

障害者支援団体に助成金

西和7町で活動する「たいむ」

損保ジャパンNPO法人設立を援助



損保ジャパン側から助成の決定通知書を受け取る富田昌博理事長(右)13日、奈良市大宮町6丁目の損保ジャパン奈良支店

西和七町で活動する障害者ための助成金30万円が、者支援団体「たいむ」（平野浩志理事長）から贈られる。群光ヶ丘二丁目、富田昌博理事長から贈られる。特定非営利活動（NPO）法人設立の奈良市大宮町六丁目の損保

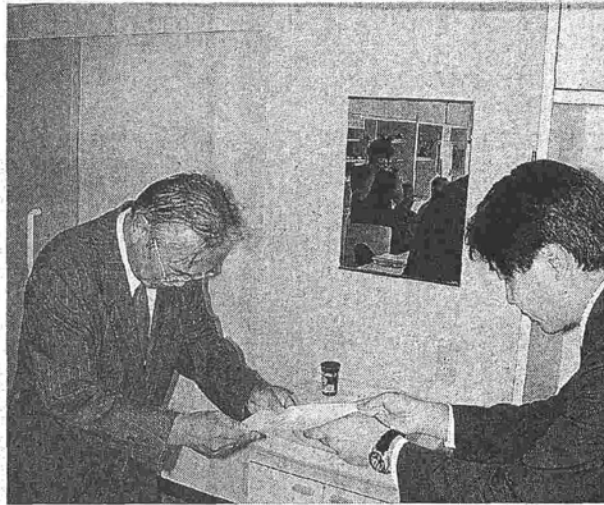
ジャパン奈良支店で贈呈式が行われた。「たいむ」は障害者の社会参加を支援しようと、西和地域の社会福祉協議会関係者らが中心となって、昨年十一月ごろから設立を準備してきた。今年五月に設立総会を開き、現在は県にNPO法人設立の認証を申請中。

設立後は障害者の居宅介護や外出支援活動をベースに、ホームヘルパー養成講座の開催や催しなどを開いていく予定。同財団の社会福祉助成活動の一環で、平成十一年から全国の障害者・高齢者福祉団体にNPO法人設立資金の助成を行っている。この時も同団体に資金を贈った。県内では四番目の助成。式では、奈良支店の上崎正司指導役が「今年には全国で二百六十五件の助成申し込みがあり、六月の選挙考

員会で今回の助成を決めた。今後できる限り活動を受けたい」とあいさつし、富田理事長に助成の決定通知書などを手渡した。

富田理事長は「設立まで大変なお金がかかるので助成は本当にありがたい。NPO法人の設立をきっかけに、障害者の地域生活を支える活動を広げていきたい」と話していた。

浜田の福祉移送
サービスに助成金
損保ジャパン
NPO(特定非営利活
動)法人の設立を支援し



工藤孝博支社長(右)から助成金の目録を受け取る上
ヶ迫昌宏代表

よつと、損保ジャパン記
念財団は二十七日、体の
不自由な人たちの福祉
移送サービスなどを手掛
ける浜田市の「いきいき
倶楽部」に、設立資金三

贈呈式では大変感謝
され、助成事業は私自
身が思っている以上に
意義深いものであると
感じました。

それぞれの分野で、
地道に活動を行っている
皆さんを心から応援
したいと思います。

[島根支店 松江支社]
リーダー(支社長)
工藤 孝博 さん

十万円を贈呈した。
同財団は、一九七七年
に安田火災記念財団とし
て設立。昨年、現在の名
称に変更した。九九年か
ら民間の福祉活動を推進
する目的で、全国の百団
体にNPO法人設立資金
として各三十万円ずつ計
三千万円を毎年、助成し
ている。

本年度は全国から二百
六十五件の申請があり、
県内からは同倶楽部が選
ばれた。
贈呈式は、同市野原町
の市総合福祉センターで
あり、損保ジャパン島根
支店松江支社の工藤孝博
支社長が、同倶楽部の上
ヶ迫昌宏代表に目録を手
渡した。また、同倶楽部
の設立総会も併せて行わ
れた。
上ヶ迫代表は「助成金
は、福祉関係に役立てた
い」と話している。

同財団は、一九七七年
に安田火災記念財団とし
て設立。昨年、現在の名
称に変更した。九九年か
ら民間の福祉活動を推進
する目的で、全国の百団
体にNPO法人設立資金
として各三十万円ずつ計
三千万円を毎年、助成し
ている。

NPO法人設立
資金30万円助成
損保ジャパン財団
損保ジャパン記念財団
(平野浩志理事長)は十
八日、社会貢献活動の一



中村徳山支社長(右)から設立資金助成の決定
通知書を受け取る河本さん

環としてNPO法人設立
のための資金三十万円
を、周南市松保町の障害
者福祉作業所「海月倶楽
部」(北川博義代表)の
関係者らでつくる同法人
設立準備委員会に贈つ
た。

財団が今年度の社会福
祉助成金として、全国の
障害者・高齢者福祉団体
(百団体)にNPO法人
設立資金各三十万円の支
援を決定。県内では、北
川代表らを中心にしたメ
ンバーで設立予定の準備
委員会が選ばれた。
この日、同財団の代理
として中村孝雄・損害保
険ジャパン徳山支社長が
作業所を訪れ、設立メン
バーでもある河本博文・
同倶楽部運営委員会事務
局長に、決定通知書など
の手続き書類を手渡し
た。準備委員会では今年
中にNPO法人を設立
し、新年度から同倶楽部
の運営をしていくことに
している。

31. 徳島支店 徳島新聞 (6/20)

支援 美馬の団体に
助成金30万円
NPO 損保ジャパン財団
損保ジャパン記念財団
(東京)はこのほど、美馬郡内で障害者や高齢者を送り迎えるサービスを提供している美馬町のボランティア団体「エイール」に、特定非営利活動(NPO)法人化を支援する新設助成金三十万円を贈った。

エイールは、二〇〇二年九月に結成し美馬郡内を拠点に活動していて、近く法人化を申請する。笠井宏記代表(三〇〇)美馬町薬師、福祉施設職員は「法人化すれば県内一円で活動したい。助成金は福祉車両購入費に充てたい」と話している。同財団は年一回、全国の障害者・高齢者福祉団体百団体に各三十万円、計三千万円を助成している。



2年連続の贈呈式を開催しているが、極めて感謝されており、もっと社内外に大々的にアピールすることで損保ジャングループのイメージアップに大きく貢献できるものと思います。

[徳島支店]
担当課長(業務)
中島 直孝 さん

32. 愛媛支店 贈呈式写真



財団の助成金は、他の助成金に比べて提出書類や制約が少ないため非常に有り難いとの反応であり、まだまだこの制度を知らない団体がたくさん存在するので、今後もPRに努めたい。

[愛媛支店] 指導役
西沢 伸二 さん

33. 高知支店 高知新聞 (7/29)

高知市の2団体助成
 損保ジャパン記念財団
 (平野浩志理事長)は28
 日、高知市赤石町の旭共同
 作業所(寺久保光良代表)
 と、同市針木東町の障害者
 支援ネットワーク「ウエー
 ブ」へNPO(民間非営利
 団体)法人設立資金として
 それぞれ30万円を贈った。
 同財団は11年度から民
 間の福祉活動に助成を続け
 ており、本年度は全国100カ
 所の障害者、高齢者福祉団
 体に計3千万円を助成し
 た。

大変感謝され、損保ジャ
 パングループでは意義深い
 活動をしているな、とつく
 づく感じました

[高知支店]
 潮田 静香 さん



34. 九州中央支店 佐賀新聞 (7/29)

2つの団体に贈呈しまし
 ましたが、両団体とも大変喜んで
 いただきました。
 両団体代表者の活動を伺
 い感銘を受けると同時に、
 助成の意義を再確認しまし
 ました。

[九州中央支店]
 国武 由美 さん

村上九州中央支店長か
 ら通知書を受け取る本
 告ミヨ子さん(左)



NPO設立へ
 助成金を贈呈
 損保ジャパン財団
 佐賀市 損保ジャ
 パン記念財
 団(平野浩志理事長)は
 二十八日、NPO法人設
 立の助成事業で、「佐賀

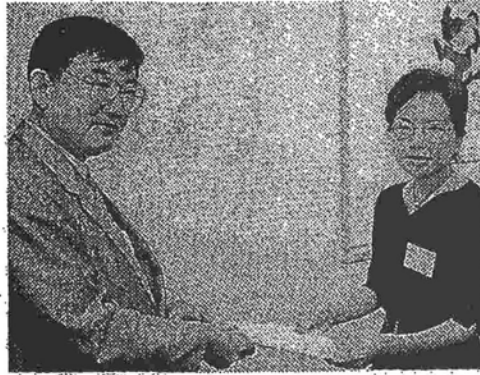
市手をつなぐ育成会」「本
 告ミヨ子代表」と「県難
 病団体連絡協議会」(三
 原睦子理事長)に助成金
 各三十万円を贈った。
 佐賀市の同社佐賀ビル
 であった贈呈式では、村
 上克之九州中央支店長が
 「地域での社会福祉活動
 の一層の充実を図ってほ
 しい」とあいさつした。
 贈呈を受けた本告代表
 は「地域で生活する知的
 障害者の支援を行い、グ
 ループホーム設立を目指
 す」と話し、また三原理
 事長も「就労情報や難病
 の情報を提供するため、
 HPを作成していきたく
 い」と語った。

NPO法人設立を真摯に考えている団体には素晴らしいプレゼントだと思います。

新聞2紙の地方面に、写真付きで掲載され、損保ジャパングループの社会貢献活動を大きく取り上げてもらい嬉しく思います。

9/20に開催される法人設立総会にも、出席要請が来ており出席予定です。助成先の今後の活動を暖かく見守るのも社会貢献と感じます。

【北九州支店】
リーダー(業務)
奥村 吉郎 さん

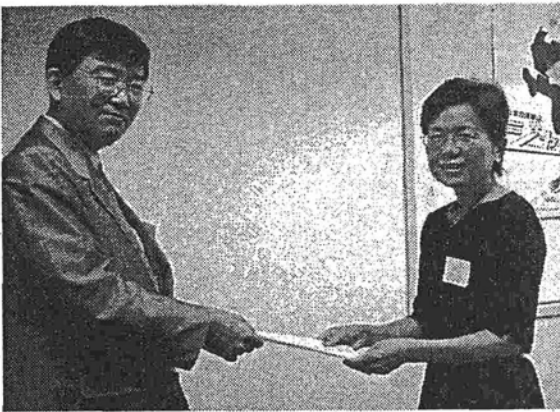


ドリドリ会は、昨年九月に任意団体として誕生。身体障害者や高齢者の家庭のインターネット接続支援などを行っており、近くNPO法人化する予定。贈呈式で藤田さんは「活動を始めてまだ一年足

NPO法人目指す「ドリドリ会」に助成 損保ジャパン財団 小倉北 NPO記念財団 (東京)の本年度の社会

福祉助成金贈呈式がこのほど、小倉北区米町の損害保険ジャパン北九州支店であり、特定非営利活動法人(NPO法人)設立を目指すボランティア団体「ドリドリ会」(八幡西区、藤田睦世代表)に助成金三十万円が贈られた。写真。

「この小さな団体です。この期待を込めるような活動を続けていければ」と話していた。助成事業は、前身の安田火災記念財団が七七年に設立されて以来続けられている。今回は応募した全国二百六十五団体のうち百団体に助成が決まり、各地で贈呈式が行われているという。



NPO設立に助成金 損保ジャパン記念財団

身体障害者や高齢者の自宅に向いてインターネットの接続やメールの送受信などを教えているボランティア団体「ドリドリ会」(事務所・北九州市八幡西区鳴水町)が、損保ジャパン記念財団からNPO法人設立資金として30万円の助成金を贈られた。写真。

同会は職業訓練校パソコンインストラクターの藤田睦世さん(66)が代表。昨年9月、「パソコンで社会貢献を」と受講生らに呼びかけて発足した。会員は30代から79歳までの33人。同市小倉北区米町の損害保険ジャパン北九州支店で28日あった贈呈式で、藤田代表は「ご期待にそえるような活動をするつもりです」と謝辞を述べた。同財団は99年から毎年100団体にNPO法人設立資金として各30万円を贈っている。



法人設立の資金を
明和共生会に助成

損保ジャパン記念財団

損保ジャパン記念財団(東京)は社会福祉活動の一環で、特定非営利活動法人(NPO法人)の設立資金として、南高深江町の明和共生会(八木敦子代表)に助成することを決定、通知書を六日渡した。

同財団は損害保険ジャパンの関連団体。ボランティアグループなどがNPO法人を設立する際の費用として一九九九年から毎年、百団体に一団体当たり三十万円を助成している。

本県で助成を受けるのは三件目。明和共生会は障害者、高齢者を対象にした給食、移送サービスなどに取り組む計画。九

月ごろ、県に設立認証の取得を申請する予定。

六日、長崎市万才町の損害保険ジャパン長崎ビルで、高橋薫同社長崎支店長が八木代表に助成決定の通知書を手渡した。八木代表は「高齢者、障害者のために使いたい」と謝辞を述べた。



助成決定の通知書を受け取る八木代表(右)と長崎市万才町、損害保険ジャパン長崎ビル

社会にこのような形で貢献する人たちの存在を、あらためて認識し、ボランティア活動への理解が深まりました。

[長崎支店]
リーダー(業務)
竹前 浩之さん

38. 熊本支店 熊本日日新聞 (7/29)

◆損保ジャパンが福祉団体に助成金

損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)はこのほど、「NPO(特定非営利活動)法人設立資金」の本年度の助成対象100団体を決めた。県内からは熊本市の「NPOセーフネット」(佐藤大悟代表)が選ばれ、24日、熊本市



花畑町の損保ジャパン熊本支店で贈呈式があった一写真。助成金は1団体30万円。同団体は現在、NPO法人設立認可を申請中。今後は医療法人と連携し、高齢者向け介護付き賃貸マンションのオープンを目指す。同財団は、障害者や高齢者の在宅福祉に関する活動をする福祉団体を対象に、99年度から毎年100団体に助成。県内では昨年度までに6団体が助成を受けた。

花畑町の損保ジャパン熊本支店で贈呈式があった一写真。助成金は1団体30万円。同団体は現在、NPO法人設立認可を申請中。今後は医療法人と連携し、高齢者向け介護付き賃貸マンションのオープンを目指す。同財団は、障害者や高齢者の在宅福祉に関する活動をする福祉団体を対象に、99年度から毎年100団体に助成。県内では昨年度までに6団体が助成を受けた。

NPOは立ち上げまでに費用がかかるということで、今回の助成は大変に感謝されました。

当日は地元の新聞社の取材もあり、大変意義深い贈呈式となりました。

[沖縄支店]
指導役 大城 昭三さん

39. 沖縄支店 沖縄タイムス (8/7)

▽NPO法人設立資金を寄付



損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)は、NPO法人化への助成事業として、NPO法人ふいーるとばわー

設立準備会(高良千春代表)に社会福祉助成金30万円を寄付一写真。同財団の社会福祉助成は26回目(NPO法人設立助成は5回目)。

高良代表は「寄付金はパソコンなどの購入に充てたり引きこもりや登校拒否児童のスキルアップの役に立てたい」と感謝した。

（財）損保ジャパン 記念財団 首都圏地区贈呈式開く



贈呈式には140人を超える出席があった

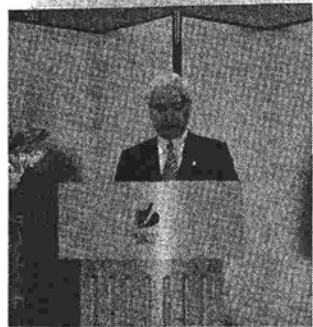
NPO設立資金を助成

（財）損保ジャパン記念財団（平野浩志理事長）は7月23日、NPO法人設立資金助成の首都圏地区（東京・埼玉・千葉・神奈川）贈呈式を東京・西新宿の損保ジャパン本社ビルで開催した。過日開催された選考委員会で、全国で100の団体への助成が決定した。

あいさつした平野理事長（損保ジャパン社長）は、「本日は、平成11年度から15年度までの助成団体の方も含め140人を超える多数の出席をいただき感謝したい。昭和52年の財団設立以来26年目を迎え、累計事業費総額も16億円となり、ささやかではあるが、社会の評価を一定得られたこと

に重ねて感謝の意を表したい。皆さんには、国や企業

平成15年度 損保ジャパン 社会福祉助成金



あいさつする平野理事長

だけでは力の及ばないところをNPO市民活動の中核リーダーとして活躍してもらいたい」と述べた。引き続き、6人の選考委員を代表して、社会福祉選考委員長の板山賢治氏があいさつに立ち、「社会福祉助成はユニークな事業であり、皆さんはNPOを法人化する生みの苦しみを味わっている」と理解している。応募団体の内容も、国の画一的なサービスから独特なものへ広がり、分野も

子育て・絵画・スポーツなど多岐にまたがってきている。また、権利擁護への動きも見られ、自閉症・登校拒否などへも注目が集まっている。助成金の原資は、財団からと損保ジャパンの社員からの浄財も含まれている。有効に活用して地域の社会の福祉の担い手となることを祈念している」と述べた。

島茂樹氏があいさつし、「平成11年施行のNPO法は今年5月に改正され、分野も12から17分野に拡大された。この間、多くのNPO法人が法人格を取得し、社会貢献活動を行っている。自助・共助が社会の大きな要素となってきた。専門性と柔軟性を生かし、皆さんの継続的行動に感謝と敬意を表したい。今後とも行政も積極的にかかわりを持っていきたい」と締めくくった。





平野理事長



板山選考委員長



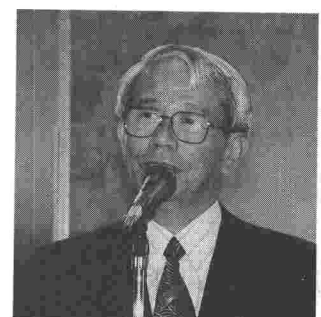
高島部長(東京都生活文化局都民協働部)



前田さん(助成先:精神保健を考える会
まいんどくらぶ)



松原氏(シーズ事務局長)



松尾選考委員